

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた「B」:一部目標を達成できた「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画頁	所管課	(令和4年度)主な実績	自己評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
<b>基本方針4 「伝統文化等の継承」</b>												
<b>施策2 地域の特色となる文化芸術の形成</b>												
		【4-2-1】	地域の特徴的な文化資源の発掘	歴史の中で培ってきた生活文化、伝統芸能、文化的景観等、市民に愛される地域の特徴的な文化資源を発掘する取組について実施する。	心身の健康 地域への愛着 共生社会の実現 地域の活性化	実施	31	文化振興課	伝統文化等継承事業補助金について市報や市ホームページにて周知を行い、団体を募集した。その結果、3団体より交付申請があり、保二小どんど焼き実行委員会へ100,000円、上向台どんど焼き実行委員会へ100,000円、明保中どんど焼き実行委員会へ100,000円を交付した。	A	伝統文化等継承事業補助金交付制度を通じ、地域の伝統文化について発掘する取組を実施することができた。	引き続き、地域の伝統文化について情報収集に努め、文化資源を発掘する取組について検討を行う。
								みどり公園課	下保谷四丁目特別緑地保全地区は、武蔵野地域に見られる典型的な散居型屋敷林の面影を現代に伝えている施設であり、年間24回の一般解放及び四季折々のイベントを年間5回実施し、施設の周知に努めた。	A	地元のボランティア団体及び武蔵野大学の学生とみどり公園課の協働によりイベントを開催し、多くの方にご参加いただいた。	令和3年度に策定した保全活用計画に基づき、令和4年度は、下保谷四丁目特別緑地保全地区において、一般開放の回数を増やしたり、四季折々のイベントを実施したりすることができた。令和5年度以降も取り組みを継続しつつ、新たな文化資源の活用の可能性を発掘できるよう努めていく。
								社会教育課	下野谷遺跡の発掘調査や遺物調査を継続して行い、新たな価値の発見に努めた。	B	下野谷遺跡の調査・研究を行い、文化資源の発掘に努めた。	引き続き、様々な形での調査・研究を行い、地域の特色ある魅力的な文化資源の発掘に努める。
		【4-2-2】	図書館の地域資料の活用	地域資料のうち、市民の文化芸術に関する情報の収集・保存・公開について、その活用を検討する。	心身の健康 地域への愛着 共生社会の実現 地域の活性化	実施	31	図書館	図書館の地域・行政資料の収集、提供、保存業務の中で実施した。	A	資料収集、形態や内容に合わせた保存と提供(公開)について、都度個々に検討して取り組んだ。	図書館の地域・行政資料の収集、提供、保存業務を継続させる。
<b>基本方針5 「交流による活動の拡大・活性化」</b>												
<b>施策1 障害者や外国人など多様性への理解と交流の促進</b>												
								文化振興課	市民文化祭、多摩六都事業、「対話による美術鑑賞」事業、都市間交流事業(下郷町)、国際化推進事業を実施し、外国籍市民や障害を持つ市民、幅広い年齢層の市民が文化体験やワークショップ等交流することができた。	A	新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、多様な市民に対し、交流等をする機会を提供することができた。	引き続き、多様な市民が参加・交流できるイベント等を検討する。
								地域共生課	当市の地域共生社会の実現について考える「ともに生きる！まちづくりフェス」を保谷こもれびホール及び保谷庁舎にて開催した。	A	新型コロナウイルス感染症への感染対策を行いながら、イベントを開催することが出来た。	様々な開催方法を検討しながら、開催継続を検討する。

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた「B」:一部目標を達成できた「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画頁	所管課	(令和4年度)主な実績	自己 評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
		【5-1-1】	多様な市民が交流できるイベントや事業の実施	多様な市民が参加し、交流することができるイベントを実施する。	心身の健康 共生社会の実現 地域の活性化	実施	32	高齢者支援課	高齢者に限らず誰でも気軽に参加できるサロン活動である「街中いこいーなサロン」は令和4年度末時点で、35団体が登録して活動している。(令和3年度:32団体)	A	高齢者に限らず誰でも気軽に参加できる「街中いこいーなサロン」に対する活動支援を行った。	登録団体を育成し、団体間の交流の機会などを設ける。また新型コロナウイルス感染症の流行下においても継続的な活動が実施できるよう状況に応じた支援を行う。
障害福祉課	・例年実施しているフレンドリーまつりが新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止になったことで、利用者の活動の場が減少した。 ・保谷障害者福祉センター文化祭は新型コロナウイルス感染症拡大防止により縮小して実施した。 ・障害者週間において、アスタセンターコートで市内事業所の製品等の展示・販売の機会を提供した。 ・障害者週間において、コール田無にてパラスポーツイベントを開催した。							A	複数の団体・市民が参加することができるイベントを実施した。	引き続き、多様な市民が参加できるイベントを実施する。		
児童青少年課	児童館・児童センターの利用や定期的を実施している工作やスポーツのイベントにおいては、基本的に多様な児童が参加し、交流するものを実施している。							A	新型コロナウイルス感染症の影響で行事は大幅に減少したが、子どものニーズを把握しながら、各児童館にて多様な市民が参加・交流できる行事を実施できた。	今後も継続して多様な人々が参加することができる事業を実施する。		
スポーツ振興課	スポーツ推進委員会事業として、障害の有無にかかわらず誰でも参加できるENJOYニュースポーツ事業を開催した。							A	新型コロナウイルス感染症の影響で回数は減少したものの実施した。	多様な市民が参加し、交流できるイベントの実施を検討する。		
協働コミュニティ課	・オンラインで開催したパレマツりで、性的マイノリティや外国文化の紹介を行う団体による講演会のライブ配信や活動紹介動画の公開を行った。 ・NPO等企画提案事業において、性的マイノリティの理解促進となるヒューマンライブラリーを協働で実施した。							A	ライブ配信やアーカイブ配信により子育て世代が家から参加できる講座を実施するなど取り組んだ。	引き続き、多様な市民による交流イベントの実施について検討する。		
公民館	・5館で、幅広い世代の市民が交流する機会として、公民館や地域で活動する文化芸術団体のステージ発表や作品展示等を行う地域交流事業を実施/ヤギフェス柳沢みんなの文化祭(柳沢)、田無公民館まつり、芝久保公民館まつり、ひばりが丘フェスティバル、駅前フェスタ(保谷駅前) ・障害のある人もない人もともに参加する事業を実施/イスに座ってやぎさわディスコ(柳沢)、インクルーシブな社会をめざす講座(谷戸) ・異なる文化背景をもつ市民の話聞く事業/多文化カフェ(保谷駅前)							A	5館で、幅広い世代の多様な市民が参加、交流する機会として、コロナ禍に対応した方法で、地域交流事業を実施するとともに、障害の有無を問わず一緒に参加する事業や異なる文化背景をもつ市民の話聞く事業を実施した。	多様な市民が参加、交流する地域交流事業を実施する。		
図書館	多文化サービス「いろいろなことばでたのしみおはなし会」 市内の図書館(4月から令和5年3月まで18回実施、182名参加) いずれの回も、外国籍市民の読み手の方に、英語、中国語、韓国語、フランス語、ウクライナ語、オランダ語による絵本の読み聞かせやうたあそび、母国の文化の紹介などをしてもらった。							A	多様な背景をもつ市民間の交流が、絵本を通して実現できた。	今後も多様な市民が交流できるイベント等を図書館資料を活用しながら進めていく。		
								文化振興課	NPO法人との共催により、留学生ホームビジット、日本語スピーチコンテスト等の事業を実施し、多様な市民が参加できるようNPO法人に対し、支援を行った。	A	NPO法人による新型コロナウイルス感染症対策のリスク評価や活動団体間での感染症対策等についての助言等支援を行い、事業をオンラインで開催することができた。	引き続き、多様な市民が参加できるよう、NPO法人に対し、支援を行う。
								地域共生課	「地域の縁側プロジェクト」の居場所やほっとネット推進員による居場所活動において、活動についての相談の対応、支援を行っている。	A	活動に対する相談、支援を行っている。	調整会議等を通じて、引き続き、地域福祉コーディネーターと連携を図り、ニーズの把握に務める。

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた 「B」:一部目標を達成できた 「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画頁	所管課	(令和4年度)主な実績	自己評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
		【5-1-2】	市民や団体等による共生社会を支える活動の推進	市民や団体等による共生社会を支える活動を推進し、活動団体等が実施する公演や発表において、多様な市民が参加できるように支援する。	心身の健康 共生社会の実現 地域の活性化	実施	32	高齢者支援課	高齢者に限らず誰でも気軽に参加できるサロン活動である「街中いこいーなサロン」は令和4年度末時点で、35団体が登録して活動している。(令和3年度:32団体)	A	高齢者に限らず誰でも気軽に参加できる「街中いこいーなサロン」に対する活動支援を行った。	引き続き、登録団体を増やすとともに、コロナ禍の状況の中で、団体の継続した活動の支援や、立ち上げ、運営のための支援を行う。また、コロナ禍においても継続的な活動が実施できるよう状況に応じた支援を行う。
								障害福祉課	・例年実施しているフレンドリーまつりが新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止になったことで、利用者の活動の場が減少した。 ・保谷障害者福祉センター文化祭は新型コロナウイルス感染症拡大防止により縮小して実施した。 ・障害者週間において、アスタセンターコートで市内事業所の製品等の展示・販売の機会を提供した。 ・障害者週間において、コール田無にてパラスポーツイベントを開催した。	A	市内障害福祉団体が活動内容を発表する場を提供し、多様な市民が参加した。	引き続き、団体の活動発表及び多様な市民参加ができるイベントを実施する。
								児童青少年課	市内高校生及び近隣高校生が実行委員を担い、バンドやダンス、英語劇等の発表を行うイベントについては、コロナ禍ではあったものの実行委員会を立ち上げ、バンドやダンス、英語劇等の発表を行うイベントも実施することができた。	A	全市域を対象に高校生年代らが企画制作し発表する場の機会の提供とサポートを行うことができた。	参加団体を増加させる。令和4年度は保谷こもれびホールでの実施だったが、令和5年度は工事の関係で使用できないため、別の会場での実施を含めて検討する。令和6年度以降は再度保谷こもれびホールと共催で実施できるよう調整する。
								スポーツ振興課	多様な市民が参加できるオランダ散歩事業を実施した。また、総合型地域スポーツクラブや体育協会においても、散歩事業やノルディックウォーキング事業を実施した。	A	新型コロナウイルス感染症の影響で、ポッチャ教室は中止になったものの屋外事業は実施した。	引き続き、多様な市民が参加できるよう団体等の支援を行い、多様共生社会の実現に向けて取り組む。
								協働コミュニティ課	オンラインで開催したバリテまつりで、男女平等や性的マイノリティ、外国文化の紹介を行う団体、ITの普及啓発を行う団体、福祉、子育て、健康、終活など、様々な活動を行う団体による講演会のライブ配信やアーカイブ配信を行い、幅広い層の市民に参加・視聴をいただいた。	A	ライブ配信やアーカイブ配信により多様な世代が家から参加できる講座を実施するなど取り組んだ。	今後も継続して状況に応じて、多様な市民が参加できる方法を検討する。
								公民館	・市民団体が企画、運営する事業を、審査の上、団体と公民館の共催事業として実施する公民館市民企画事業を実施し、市民団体の活動を支援している。 令和4年度の実績 利用団体:17団体、実施事業:20事業 ・ポスター掲示、チラシ配架、公民館だよりへの案内掲載等により、市民団体による催し等の広報に協力した。	A	公民館は社会教育施設であるので、市民団体が対象となるが、日常的、継続的に市民の活動を支援している。	引き続き、公民館市民企画事業やポスターの掲示・チラシの配架・公民館だよりへの案内の掲載等の広報に関する支援により、市民団体の活動を支援する。
<p><b>施策2 他分野と結びつけた文化芸術活動・交流の促進</b></p>												
								文化振興課	・圏域5市在住・在学の中高校生で障害のある方を対象に、多摩六都フェアパラアート制作ワークショップを全4回実施し、パラアートを制作した。また、圏域5市在住・在勤・在学で障害のある方を対象に絵画作品を募集し、障害者週間に合わせて展示会を実施した。また、展示会の最終日には、障害福祉課のパラスポーツ事業と連携を図り、優秀作品の表彰式を同時開催として実施した。 ・市民文化祭期間中に「日本の文化体験フェス」in 市民文化祭を全11体験実施し、外国籍市民8人が参加した。 ・保谷こもれびホール指定管理者の事業にて、JUN SKY WALKER(S)メンバーのツアー初日開場前にチーム西東京でマルシェ、西東京市在住の中東ワールドステーション代表者を招いてエジプトに関するトークイベント、西東京市多文化共生センター(NIMIC)と共催ではなみずきにて多文化サロンを2回、講座「SDGsと多文化共生」を実施した。	A	国際交流や福祉・環境等の分野と連携を取りながら、文化芸術事業を実施することができた。	引き続き、他分野との連携を図り、文化芸術事業を実施するとともに、新たに連携を図ることができる事業の実施を検討する。

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた 「B」:一部目標を達成できた 「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画頁	所管課	(令和4年度)主な実績	自己評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
		【5-2-1】	各関連分野との連携による文化芸術事業の実施	観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野の推進施策と結びつけた事業を実施する。	共生社会の実現 地域の活性化	実施	32	高齢者支援課	高齢者大学(総合課程講座)においては、「健康」「生活」「科学」「地域」など様々な分野の講座を実施している。 高齢者大学は、延べ32回、598人が参加した。(令和3年度:32回、606人)	A	高齢者大学では、異なるジャンルの多様な講座を一括して受講することができる。	今後も高齢者大学の講座内容を検討する際には、多くの高齢者の興味・関心を引く幅広い内容の講座を一括して実施できるよう検討する。
障害福祉課	・障害者週間において、アスタセンターコートで市内事業所の製品等の展示・販売の機会を提供した。 ・文化振興課が主催するパラアート展覧会の表彰式にあわせて、コール田無にてパラスポーツイベントを開催した。 ・「ともに生きる!まちづくりフェス」において、お子さんから高齢の方まで、障害のある方もない方も、多様な市民が参加し、交流するイベントを実施した。							A	他分野の部署と連携して実施した。	引き続き、関連分野の推進施策と結びつけた事業を実施する。		
健康課	「ともに生きる!まちづくりフェス」では、遊びのブースで工作や運動の設定を行った。並行して、発達に係る相談を、気軽にできるコーナーを設けた。							A	「ともに生きる!まちづくりフェス」では、内外の機関と同室で遊びのコーナーを共有し、多くの子どもや保護者に参加いただけた。発達の相談をアウトリーチで実施できた。	引き続き、連携促進を図る事業を検討していく。		
児童青少年課	市内高校生及び近隣高校生が実行委員を担い、バンドやダンス、英語劇等の発表を行うイベントについては、コロナ禍ではあったものの実行委員会を立ち上げ、バンドやダンス、英語劇等の発表を行うイベントも実施することができた。							A	企画・立案・司会・運営までを、高校生が全て行う事業を、会議の支援を含めて本番まで実施することができた。	継続して利用者との意見交換の場を設けながら、事業を実施する。		
スポーツ振興課	令和4年10月に、市民の方のスポーツ・運動、健康づくりのきっかけをお手伝いするスポーツ相談窓口を開設した。スポーツ相談窓口事業の維持・充実のため、庁内関係各課及び外部関係機関が情報交換及び共通認識を図ることを目的として、西東京市スポーツ相談窓口事業連絡会を設置し、関連分野と連携がとれる体制がある。							A	スポーツ相談窓口を設置したことで、関連分野と連携することができるようになり、スポーツ事業を通じて、文化芸術事業との連携がしやすくなった。	スポーツ相談窓口を活用しながら、文化芸術分野事業をスポーツ施設での実施を検討する。		
協働コミュニティ課	オンラインで開催したパリエタマツリで、男女平等や性的マイノリティ、外国文化の紹介を行う団体、ITの普及啓発を行う団体、福祉、子育て、健康、終活など、様々な活動を行う団体による講演会のライブ配信やアーカイブ配信、団体の活動紹介動画の公開を行った。							A	オンラインによるイベントの実施や専用ホームページでの動画紹介などを行い、様々な分野の団体等と連携を図り、事業を実施することができた。	工夫して可能な範囲で事業の実施を図る。		
都市計画課	平成31年3月に「第二期西東京市人にやさしいまちづくり推進計画」を策定。具体的な施策について令和4年10月に関係各課に取り組み状況を調査を行った。							B	関係各課に取り組み状況の調査を行ったが、各関連分野の推進施策と結びつけた事業を実施することができなかったため。	令和5年度以降も調査を行い、各関連分野との連携を図る。		
社会教育課	・学校教育との連携では、小学校12校へのまちなか先生講座(学校出前授業)を行い、小・中学校5校の郷土資料室への団体見学を受け入れた。 ・地元の商店では、遺跡キャラクター「しーた」「のーや」などを活用した商品の販売を継続して行っている。	A	関連する分野との連携を進めることで幅広い層への文化財の周知ができ、地域へ愛着の増進にもつながった。特に学校からの団体見学を多く受け入れ、文化財や歴史に興味を持つきっかけを作ることができた。	引き続き、関連分野への理解を求め連携を広げる。								

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた「B」:一部目標を達成できた「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画頁	所管課	(令和4年度)主な実績	自己評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
								公民館	市民団体や庁内各課と連携して文化芸術事業を実施した。 ・公民館や地域で活動する団体、個人が組織する実行委員会が企画、運営して実施した地域交流事業 ヤギフェス柳沢みんなの文化祭(柳沢)／田無公民館まつり(田無)／芝久保公民館まつり(芝久保)／ひばりが丘フェスティバル(ひばりが丘)／駅前フェスタ(保谷駅前) ・市民団体と共催で実施した事業 やぎさわディスコ(柳沢)／人形劇フェスタ(柳沢)／地域講座(保谷駅前) ・社会教育課と共催して実施した事業 「親子おたのしみ企画 ドキ土器考古学 縄文時代にタイムスリップ」(芝久保)	A	・公民館や地域で活動する団体・個人が実行委員会を組織して、日頃の活動の成果を発表する催しを企画・運営する機会を提供することによって、市民の文化芸術活動を支援した。また、その催しを通して、実行委員会に参加した団体・個人同士が、そして企画・運営する市民と観る側の市民が交流した。 ・市民団体と共催で文化芸術関係の事業を実施した。	引き続き、市民団体や庁内各課と連携した事業に取り組む。
								図書館	・健康課との共催展示 「心のリフレッシュ」(自殺予防関連事業との連携) 令和4年8月16日(火)～9月19日(月) 全館にて 「女性の健康」(ピンクリボン運動、乳がん・子宮頸がん検診事業との連携) 令和4年10月1日(土)～10月30日(日) 中央図書館にて ・高齢者支援課との共催展示 「認知症をもっと知ろう」(認知症を知るキャンペーン期間との連携) 令和4年9月1日(木)～9月30日(金) 中央図書館・保谷駅前図書館・谷戸図書館にて 「フレイル予防のすすめ」(フレイル予防活動との連携) 令和4年12月1日(木)～12月25日(日) 全館にて ・地域包括支援センター支援員による「認知症サポーター養成講座」(認知症を知るキャンペーン期間との連携) 令和4年9月16日(金) 柳沢図書館にて 4名	A	市が取り組んでいる事業の周知ならびに関連資料の提供により、市民生活の充実に寄与した。	引き続き、他課が取り組む推進事業と連携し、図書館の資料を活用した展示等を行うとともに、図書館利用の促進を図る。
<b>施策3 多様な担い手の連携によるまちづくりへの促進</b>												
		【5-3-1】	活動団体等の主体間連携の促進	市内各地で行われている各イベントの活動団体等の主体同士が連携できるように支援する。	地域への愛着 地域の活性化	実施	33	文化振興課	・例年、市民まつりにおいて、多くの活動団体と連携をしているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた実施方法等について実行委員会と協議した結果、令和4年度は休止した。 ・市民文化祭は、市と西東京市民文化祭実行委員会の共催で開催し、144団体が参加した。	A	市民まつりについては、令和4年度は実施に至らなかったが、実施方法等について、実行委員会と検討し、連携を深めることができた。また、市民文化祭については、参加する団体同士で連携を図れるよう支援することができた。	引き続き、各実行委員会と協力し、市民まつりや市民文化祭の検討状況を共有しながら活動団体間での新型コロナウイルス感染症対策を検討するとともに、令和5年度の実施に向けて、活動団体の主体同士が連携できるよう支援を行う。
								協働コミュニティ課	市民協働推進センターゆめこらぼにおいて市民主体の実行委員会方式でNPO市民フェスティバルを実施したほか、団体交流会を開催し、市内のNPO等市民活動団体等、多様な主体同士が交流できる場づくりを行った。	A	イベントを通じて様々な団体の連携に繋がる場を設定することができた。	今後も継続して、多様な主体が交流・連携できる取組みを行っていく。
								文化振興課	・市民文化祭では、展示の部において武蔵野大学(書道と造形)に参加があったほか、「日本の文化体験フェス」in 市民文化祭の書道体験では講師を依頼するなど連携を図った。 ・日本語スピーチコンテストにて、武蔵野大学の参加やコンテスト審査等で連携を図った。	A	各事業を通じて武蔵野大学との連携を図ることができた。	引き続き、武蔵野大学との連携を図るとともに、市内外との大学との連携を深める。
								企画政策課	武蔵野大学: 相互協力事業12事業、附属3機関への委員就任3名(実数)	A	新型コロナウイルス感染症の流行状況下においても、事業協力及び人材交流を図ることができた。	引き続き、市内にある大学との連携について、庁内各課への情報提供を行い、様々な事業について相互協力を図っていく。
								職員課	夏季と春季に分け、武蔵野大学を含む市内外の大学の学生に対してインターンシップ(就業体験)を実施した。(夏季:7校から7名受入れ/春季:受入実績なし)	A	市での就業体験を通して、学生の就業意識の向上や市政に対する理解を深める機会を提供した。	引き続き、大学と連携を図りながら実施していく。

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた「B」:一部目標を達成できた「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画頁	所管課	(令和4年度)主な実績	自己 評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
		【5-3-2】	市内大学等との連携の充実	市内にある武蔵野大学、早稲田大学、東京大学と人材交流や育成、文化芸術関連事業等において連携を図る。	地域への愛着 地域の活性化	実施	33	障害福祉課	コロナの影響で市内にある大学との連携を図ることが困難な状況にあった。	C	市内大学と連携して福祉人材の育成を行うことが難しかったため。	市内にある大学と人材交流や育成、文化芸術関連事業等において連携を図れるかについて調査・研究を行う。
健康課	早稲田大学と一緒に作成した市の歌に合わせて行う「西東京しゃきしゃき体操」の普及啓発を講座等で行った。また、体操を普及するための「リーダー養成講座」では、大学教授による講座を実施した。							A	早稲田大学と連携をとりながら、様々な年代に体操を普及することができた。	引き続き、大学と連携を図りながら普及、啓発を実施していく。		
幼児教育・保育課	武蔵野大学との相互協力事業として実習の受入を実施した。							A	武蔵野大学と連携し、協力事業を実施した。	武蔵野大学と連携を図りながら、実習生の受入を継続実施する。		
児童青少年課	武蔵野大学と連携し、フィールドスタディーズの学生を受け入れ、夏期における児童館補助やサマー子ども教室補助において、造形活動等に携わることができた。看護学部の実習の受入れは継続実施した。							A	フィールドスタディーズや看護学部実習の受入れを実施し、生徒と児童がふれ合い造形等に取り組んだ。	今後も継続して、市内大学との連携を図る。		
スポーツ振興課	早稲田大学の協力による少年野球教室(春・秋)を実施。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしつつ、午前中のみとし、簡素化して実施した。							A	新型コロナウイルス感染症の影響で中止になっていたが、久しぶり実施することができた。	引き続き、市内大学との連携を図る。		
住宅課	武蔵野大学と連携し、フィールドスタディーズの学生を6名受け入れ、学生による空き家等の現地調査及び調査結果を踏まえた政策提案並びに成果発表を実施した。							A	学生への事前授業を実施する等、武蔵野大学と密に情報共有を行うとともに、開催に向けて最後まで調整することができた。	引き続き、武蔵野大学との連携を図りながら実施していく。		
教育企画課	・東大田無演習林観察会については、6月17日に市内の小中学生を対象に実施し、59名の児童が参加した。 ・7月23日に早稲田大学高等学院と連携し「理科・算数だいすき実験教室」を実施し、150名の参加が親子が参加した。							A	多摩六都科学館と連携し、プラネタリウム学習と東大田無演習林の観察会を実施することで、地域への愛着心を育むとともに地域の活性化につなげることができた。	引き続き、教育機関と連携を図り、地域への愛着、地域への活性化につなげていく		
教育指導課	武蔵野大学からインターンの受け入れを行い、小・中学校の教育に係る内容に触れることができるようにしている。また、学生ボランティアを受け入れも行っており、配慮が必要な児童生徒への支援を行った。							A	大学との人材交流を積極的にできた。	今後も人材交流を引き続き、行っていく。		
社会教育課	文化財保護審議会委員として早稲田大学、武蔵野大学教授を任命し、西東京市の文化財保護・活用計画の取組状況や下野谷遺跡の整備について意見をいただいた。	A	今後計画を進めていくうえで有意義な意見を伺うことができた。	引き続き、文化財保護審議会を定期的に行い、文化財保護・活用計画の取組状況や下野谷遺跡整備についての意見を伺う。								

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた 「B」:一部目標を達成できた 「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画頁	所管課	(令和4年度)主な実績	自己評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
								図書館	武蔵野大学文学部日本文学文化学科1年次「入門ゼミB」特別授業(図書館司書)に講師派遣	A	大学生に授業の一環として西東京市図書館の活動を広く周知し、書架構成や企画の参考として学生アンケートを実施したことで、図書館事業へのフィードバックを行った。	延期となっている図書館司書課程を履修している学生ゼミとの共同企画等を検討していく。
		【5-3-3】	教育機関とのイベントの連携	市内にある教育機関と連携して、文化芸術の活動者同士が交流することができるイベントを実施し、個人及び活動団体間の連携の充実を図る。	地域への愛着 地域の活性化	検討	33	文化振興課	・教育委員会との連携を図りながら、「対話による美術鑑賞」事業を小学校10校で実施した。 ・例年、市民まつりにおいて、絵画の募集等、教育機関と連携しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた実施方法等について実行委員会と協議した結果、令和4年度は休止した。 ・例年、市民文化祭において、市内小中学校、高校から展示や合唱の部への参加など教育機関と連携しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた実施方法等について実行委員会と協議した結果、令和4年度の連携は困難と判断し、実施しなかった。	A	教育委員会と連携し、「対話による美術鑑賞」事業を実施することで、教育委員会と市民ボランティアの連携を図ることができた。また、令和4年度は中止となった事業についても教育機関との連携を見据えた実施に向けての検討と準備を行うことができた。	引き続き、学校と教育委員会との調整及び連携を図りながら、「対話による美術鑑賞」事業を実施する。また、市民まつりや市民文化祭においても、実施に向け検討し、学校と教育委員会との調整及び連携を図る。
企画政策課	武蔵野大学:相互協力事業12事業、附属3機関への委員就任3名(実数)							A	新型コロナウイルス感染症の流行状況下においても、事業協力及び人材交流を図ることができた。	引き続き、市内にある大学との連携について、庁内各課への情報提供を行い、様々な事業について相互協力を図っていく。		
健康課	食育推進の一環として、保育園児及び小学生から「やさい」をテーマとしたイラストを募集し、入選作品12点を掲載した野菜たっぷりカレンダーを作成した。また、応募作品535点の中から一次選考を通過した78点に関して、保谷保健福祉総合センターで「野菜たっぷりカレンダーイラスト原画展」を行った。							A	健康課、保育園、小学校の栄養士が連携し、野菜たっぷりカレンダーの作成及び原画展を実施した。	今後も継続して保育園及び小学校と連携し、食を通じた地域の健康づくりの一環として、野菜たっぷりカレンダー事業を実施する。		
児童青少年課	武蔵野大学と連携し、フィールドスタディーズの学生を受け入れ、夏期における児童館補助やサマー子ども教室補助において、造形活動等に携わることができた。看護学部の実習の受け入れは継続実施した。中高生年代プロジェクトにおいて、市内支援学校や高校に依頼して参加者を募った。							A	フィールドスタディーズや看護学部実習の受け入れを実施し、生徒と児童がふれ合い造形等に取り組んだ。全市域を対象に高校生年代らが企画制作し発表する場の提供とサポートを行うことができた。	今後も継続して、市内大学・高校との連携を図り事業の充実を図る。		
スポーツ振興課	シチズン時計株式会社との協定に基づき、スポーツ推進や地域住民の健康増進に関し連携協力し、「健康」応援都市の実現をめざしているが、その一環として、シチズン卓球部選手が市内中学校の卓球部員の部活動サポートを実施した。							A	トップレベルの選手を技術を間近に確認できる機会を提供することができた。	引き続き、教育機関(大学)との連携を図る。		
教育企画課	多摩六都科学館と連携し、プラネタリウム学習投影利用と東大田無演習林での野外観察会を組み合わせた企画を実施した。							A	多摩六都科学館と連携し、プラネタリウム学習と東大田無演習林の観察会を実施することで、地域への愛着心を育むとともに地域の活性化につなげることができた。	引き続き、教育機関と連携を図り、地域への愛着、地域への活性化につなげていく。		
教育指導課	・新型コロナウイルス感染症対策を講じながらも、地域の方を学校に招聘し、琴の演奏等の日本の伝統文化に関する体験的な学習の機会を設定することができた。 ・東京都が主催した「子供を笑顔にするプログラム」を活用し、野球観戦や、海外の演奏などを聞く機会を作った。							A	新型コロナウイルス感染症拡大防止をしながら、市内の伝統文化の指導者を招聘し児童・生徒との交流ができた。	新型コロナウイルス感染症拡大防止をしながら、今後も地域等と交流をしていく。		
社会教育課	・多摩六都科学館との共催事業を行った。 「科学の視点で考古学」：土器に残る痕跡(圧痕)を探し、分析する研究を体験。 ・実施には市民や学生の協力を得た。							A	連携により、歴史文化に興味を持つ層以外にも、歴史文化、文化財の魅力を伝えることができた。	引き続き、市民団体や多摩六都科学館、市内大学などと連携して事業を実施する。		

■基本方針5、施策16、取組の内容54(うち実施42、検討12)

【自己評価の基準】「A」:目標を達成できた 「B」:一部目標を達成できた 「C」:目標を達成できなかった

基本方針	施策	取組番号	取組の内容	概要	効果	計画目標 R1-5年度	計画頁	所管課	(令和4年度)主な実績	自己 評価	評価の理由	今後の展開(課題・予定)
		【5-3-4】	市内事業者等との連携の充実	市内事業者等と市民が連携して文化芸術分野の事業を実施することで、市内の交流の活性化を図る。	地域への愛着 地域の活性化	検討	33	文化振興課	例年、市民まつりにおいて、市内事業者等と市民の連携を図っているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた実施方法等について実行委員会と協議した結果、令和4年度は休止した。	A	市民まつりについては、実行委員会と、市内事業者等を交えながら新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた実施方法等について検討し、連携を図ることができた。	引き続き、実行委員会、市内事業者等と協力し、イベントを実施することで、多くの団体同士が連携できる場を提供するだけでなく、来場した市民との交流の場としていく。
	産業振興課							補助金交付事業である例大祭委員会主催の田無神社例大祭(田無神社・田無商業協同組合)を10月8日(土曜日)、9日(日曜日)に実施した。	C	コロナ感染拡大防止のため、内容(神輿の町内の練り歩きの取り止め)を縮小したことにより、商店街の参加が見送られた。(商店会との検討・調整は行っていない。)	今後も地元連携型イベント事業を活用し、商店街と地域の団体が連携していくことが望まれるが、商店街の体制等により、事業継続が難しくなっている。 また、商店街がどのように係ることができるのか等を検討していく。	